

年度末に向かってフルエンジンになってきました。インフルエンザが流行っているようです。健康に注意しましょう。

/// I N D E X //

- ・ ISO 関連解説-----マスバランスアプローチの行方は？
- ・ LCA の実務 mini-----Scope3 のカテゴリ 1 は製品の CFP です。
- ・ LCAF からお知らせ...Finkbeiner 教授を招いて(2月27日)特別セミナーを行います。  
次回の初級検定の予定です。
- ・ 編集後記.....英語のこと

■■ LCA 関連解説：マスバランスアプローチの行方は？ ■■

最近、LCA や CFP の新しい算定方法として「マスバランスアプローチ」が話題になっています。石油系エチレンとバイオマス系エチレンを (9 : 1) で混合して合成したエチレンの 10%分を「100%バイオマスエチレン」として販売するという方法です。これが議論されている ISO には次のものがあります。

・ ISO14021 (環境ラベラー自己宣言) : リサイクル材料と新品材料を混合した製品の「リサイクル率」の表示にマスバランスアプローチを採用する方向で議論されています。つまり、新品材料が混ざっていても「100%リサイクル製品」と言うことができるようになります。もちろん説明が必要ですが。。もうすぐ DIS 段階になります。

・ ISO14077 (LCA でのマスバランスアプローチの使い方) : 第 1 回のワーキンググループが行われたばかりです。規格の原案を書くアドホックグループ (AHG) が立ち上がり、マスバランスアプローチが書かれている ISO22095:2020 (流通過程の情報管理) とその詳細版である ISO13662/DIS(マスバランスアプローチ)を AHG 内で共有することを始めています。この AHG の議論で特徴的なことは、マスバランスで、ある製品に割り当てられた量 (例えば、バイオマスの量) が、その他の製品にダブルカウントされていないことを確認することが強調されていることです。再生可能エネルギーを売っているながら、その量を一般の Grid の GHG 排出量にダブルカウントしているという例が欧州ではあるようです。私は、LCA ですから影響評価をどのように行うのか心配していますが、まだ割り当ての方法だけが議論されています。この議論の議長は、ベルリン工科大学の Finkbeiner 教授です。以下の「LCAF からのお知らせ」をご覧ください。

・ ISO14067 (カーボンフットプリント (CFP)) : 第 2 回の WG が 2 月上旬にオンラインで計画されています。現在の 2018 年版のどこを変えるか議論する段階です。上記の ISO14077 と並列で作業が進むので、お互いに協調して進めることになっています。

・ ISO13662/DIS(マスバランスアプローチ) : ISO22095:2020 (流通過程の情報管理) の詳細版です。DIS のコメント処理が 5 月に行われ、秋には発行が予定されています。一番大きな議論は、サイト間でのクレジットの移転です。わかりやすい例でいえば、アメリカ西海岸に輸入された持続可能栽培のバナナの「持続可能性」を、東海岸の「持続可能栽培でないバナナ」に付け替えるということです。これを認める方向で議論が進んでいます。みなさんどう思いますか？

ISO は産業界で議論されていますが、もっと一般に「不当表示」等での制約が表面に出てくることがないか、心配です。今後の行方を注視したいと思います。

■■ LCA の実務 mini24 : Scope3 のカテゴリ 1 は製品の CFP です ■■

この間「Scope3 の算定をしているのですが、カテゴリ 1 (購入した製品・サービスの GHG 排出量) は、サプライヤー企業の Scope3 を入手し集計すればいいんですよね」と聞かれてびっくりしました。「いえいえ、カテゴリ 1 は『購入した製品・サービスの資源の採掘から製造までの GHG 排出量』ですから、サプライヤーの Scope3 ではありません」と回答しました。質問する

人も、ちょっと変だと思いつながら聞いているようです。

よく聞けば、Scope3 算定の支援をしているコンサルが「カテゴリ 1 はサプライヤーの Scope3」と教えているようです。企業全体の Scope3 の算定をしているが、個々の製品のカーボンフットプリント (CFP) を算定している企業が少ないことが背景にあるようです。Scope3 は企業全体の収支決算表で計算することができるので、個々の製品のデータを収集するより楽に算定できるという面があります。

しかし、Scope3 は企業全体ですので、複数の製品を製造しているサプライヤーの場合は購入している製品分だけを切り出す必要があります。しかも、通常は「資源の採掘から製造まで」のカテゴリ 1 で要求されていない「製品の使用・廃棄段階」も含まれていますし、CFP では算定しない「従業員の通勤」や「出張」が含まれています。したがって、サプライヤーの Scope3 をそのまま使うことができません。

サプライヤーの Scope3 データを使う場合は、最低限、サプライヤー企業全体の Scope3 から購入している製品分だけを切り出し、カテゴリ 1 (原料上流)、カテゴリ 3 (エネルギー上流)、カテゴリ 4 (上流輸送)、カテゴリ 5 (製造工程での廃棄物処理) だけを抽出する必要があります。これを指導しているコンサルや民間の活動もあるようですが、その指導が行き届きすぎて、「Scope3 のデータがあれば、購入している製品の GHG 排出量の算定は必要ない」という誤解が広まっているように思います。

カテゴリ 1 は『購入した製品・サービスの資源の採掘から製造までの GHG 排出量』です。ご注意ください。

## ■■ LCAF からのお知らせ ■■

### ○特別セミナーのご案内

2025 年 2 月 27 日 (木) 16:00-18:30 にベルリン工科大学の Finkbeiner 教授を招いて、「マスマスバランスモデルと削減貢献量の活用：ISO での論点」の特別セミナーを対面で開催します。Finkbeiner 教授は、ISO 発行の作業が始まった ISO14077 (LCA でのマスマスバランスモデルの使用) の議長です。セミナー終了後に簡単な懇親会を行います。オンラインでの視聴も可能ですが、質問はできません。詳細は以下をご覧ください。

[https://lcaf.or.jp/lcaf\\_seminar0227/](https://lcaf.or.jp/lcaf_seminar0227/)

○初級検定試験：3/1(土)に行います。今週より受付が開始されます。

[https://lcaf.or.jp/education/test/arc\\_beginner/](https://lcaf.or.jp/education/test/arc_beginner/)

○[再掲です] 新しい参考図書「基礎から学ぶ LCA～LCA の実施と活用～」を発行しました。

以下からお申込みください。(3,000 円+税+送料) です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

## ■■ 編集後記 ■■

東京のメトロが混雑しています。この間乗った車両は比較的すいていたのですが、半分が白人系の外国人でした。東洋系の外国人は会話を聞かないと判別できないことがあるので、他の乗客の半分くらいは東洋系の外国人だったかもしれません。

静岡の田舎で育ったので、大げさに言えば、高校を出るまで外国人に会ったことがありません。中学から英語の授業がありました。ニュープリンスが教科書でしたので「デスイズアペン」と大声で叫びました。私はもともと、「あれ数ふれば暁の、七ツの時は六ツ鳴りて、残る一ツが今生の、鐘の響きの聞き納め、、、(曾根崎心中)」のような日本語の響きが好きだったので、英語にはほんとうに苦労しました。映画「フーテンの寅さん」の「たんかばい」のリズムも大好きです。

高校の成績も 10 段階評価で英語と体育が国語系と理数系の半分の評価でした。当時の英語の担任の先生が、あちらの世界で私が今も ISO で英語に苦労していることを見て、「さもなん」と笑ってくれているように思います。

この間、ISO14021 (環境ラベラー自己宣言) の WG で、リサイクル材料のマスマスバランスの議論をしました。プロセスへの「input」というのは消費者にはわかりにくいというので、「raw material (原料)」に代えたらどうかと発言しましたら、スウェーデンの人から「リサイクル材料は raw material ではない」というコメントがありました。彼女にとっては「raw material は地下から採取する資源」ということのようにです。こういう議論になると、教科書での勉強はほとんど役にたちません。同じ高校で勉強していても「ながさきーは一今日も雨だった。。。(クールファイ

ブ)」歌う隣で「ヘー Judy ー。。。(ビートルズ)」とロズさんでいた友人の方が英語の成績が良かったのが良く理解できます。

高校を出るまで外国人をみたことがなかった私からみると、この頃の若い人たちは英語に堪能だとつくづく思います。外国人に囲まれて育っている近頃の子供たちは、もっと英語に親しんで育つと思います。そういう人たちが、ISO などの国際交渉を担ってゆくのだと思います。国際的に明るい社会が開けているように感じる 2025 年の初頭です。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

-----  
ご意見,ご感想,この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで  
[lcaf-contact@lcaf.or.jp](mailto:lcaf-contact@lcaf.or.jp)

-----  
一般社団法人 日本 LCA 推進機構  
Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)  
(エルカフと呼んで (読んで) ください)  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-36-7  
アルテール池袋 608  
電子メール : [lcaf-contact@lcaf.or.jp](mailto:lcaf-contact@lcaf.or.jp)  
URL:<https://lcaf.or.jp/>